

令和5年度 府中市立四谷小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①説明文において、文章全体の構成を読み取ること。 ②言葉の意味や使い方を正しく理解すること。 ③文章の要点を読み取り、理解したことを自分の言葉でまとめること。	①説明文における段落ごとの役割や段落相互の関係を、表や図を活用しながら整理する活動を充実させる。 ②辞書や資料を活用しながら、熟語や慣用句などの意味を調べる活動を意図的に組み込む。 ③文章の要点につながる語や文の見付け方やまとめ方をスモールステップ化して指導する。		
算数	①基礎基本の習熟を図ること。 ②計算に関して成り立つ性質と様々な事象を関連付けて考察すること。 ③日常生活の事象について目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったりとらえたりする力。	①倍数、約数、小数や分数の仕組みなど数の理解の定着を図るために、学習することと関連付けながら振り返り、様々な問題の解決と関連付け活用していく意識を育てる。 ②計算に関して成り立つ性質を基に既習の学習内容を振り返り、統合的・発展的に考える活動を意図的に行う。 ③興味関心や問題意識に基づき、問題を設定し、資料を読んだり、データの特徴や傾向をとらえたりすることで結論を導いたり、結論について考えたりする指導を充実する。		
理科	①問題解決の見通しをもちながら観察・実験を行うこと。 ②観察や実験の結果を、問題や予想などに照らし合わせて考察すること。 ③観察・実験で使用する器具の使い方を理解し、正しく扱うこと。	①問題を見いだす活動、観察・実験の計画を立てる活動を充実させ、興味関心や問題意識を高める。 ②結果を、表やグラフに整理させる。また、読み取ったことを自分の予想と照らし合わせたり、他者と交流したりして、多面的に考えさせる。 ③ICT機器を有効に活用し、児童が器具の使い方を視覚的に理解できるようにする。		
社会	①歴史学習に対する問題解決の意識が育っていないこと。 ②調べ学習において、資料の中から必要な箇所を取り出したり、選んだりすること。 ③「知識・技能」の観点で習熟の程度に広がりが見られること。	①時代の移り変わりを示すことで、歴史的な事件相互のつながりを読み取れるようにする。 ②資料から分かることを児童同士交流させたり、ICT機器を活用して情報を共有したりするなど、学び合いの活動を充実させる。 ③キーワードを使って、人物や時代について短文でまとめ、理解を深めさせる。		
音楽	①曲想に合う歌い方や演奏の仕方を工夫すること。 ②互いの演奏を聞き合ったり、自分たちの演奏を聞いたりしながら、自分達の演奏を分析すること。 ③演奏すること、表現することの楽しさを知ること。	①楽譜に書かれている情報を読みとる学習や、歌詞と音楽との関係性を考える学習を多く取り入れる。曲想を表現するための楽器の奏法や歌唱法を学ばせる。 ②ICT機器を活用し、曲想に合わせてどのように演奏したいか、どんな工夫ができるかといった意見交流をしたり、録画した自分たちの演奏を見たり聞いたりし、自分たちの演奏を客観的に聞き、分析できるようにしていく。 ③演奏する楽しみ、表現する楽しみを味わえるような教材や活動を工夫し、子供たちが笑顔で音楽を楽しむ授業を行う。		
図画工作	①既習の知識や技能を活かして表現豊かに活動すること。 ②どの題材においても自ら目標や課題を設定し、主体的に取り組むこと。	①既習の学習を振り返る場面を設定したり、自分の表したい主題や内容と照らし合わせて材料や用具を選んだりする場面を設定する。 ②児童の興味・関心、生活などと題材を関連付け、自ら目標や課題を設定する態度や力を育てる		
家庭	①裁縫における様々な技能に個人差があること。 ②学習したことを生かして、家族の一員としてできることを増やすこと。	①ICT機器を活用し、ポイントとなる部分を焦点化して見せる。また、教え合いを通して、技能を定着させる。 ②家庭で試したり、役立たせたりするため、チャレンジカードを活用する。また、家庭での実践を授業で報告し合い、共有することで、その後の活動に意欲をもたせる。		

令和5年度 府中市立四谷小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

体育	<ul style="list-style-type: none"> ①運動の仕方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 ②自分に合った運動の課題やめあてをもち、運動方法を正しく選択できること。 ③毎時間の運動量に個人差があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT 機器を有効に活用し、自分の体の動きを見ることで、イメージと実際の動きのギャップを埋められるようにする。 ②段階的に技能を習得できる場を設け、児童が自分に合った運動を選択できるようにする。 ③コーディネーショントレーニングやサーキットメニューなどの運動を継続的に行う。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ①語彙・発話量の向上し、基本的な英語表現を理解すること。 ②基本的な英語表現を理解し、児童の語彙の量が向上すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ①発話量を増やすためには、語彙の獲得が重要であり、語彙の獲得のためには、繰り返しの練習が必要であるため、デジタル教材用いて、繰り返し練習できるような教材を準備する。 ②語彙の練習、復習を同じ流れで毎時間行い定着を図る。授業の初めを復習時間にあて、既習事項と本単元に関する英語表現を確認する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。